

つがるの昔っこ28 (昔話)

和尚様と小坊こ③ (標準語)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：うじいえひろみ
カラーリング：みやかわ みなみ



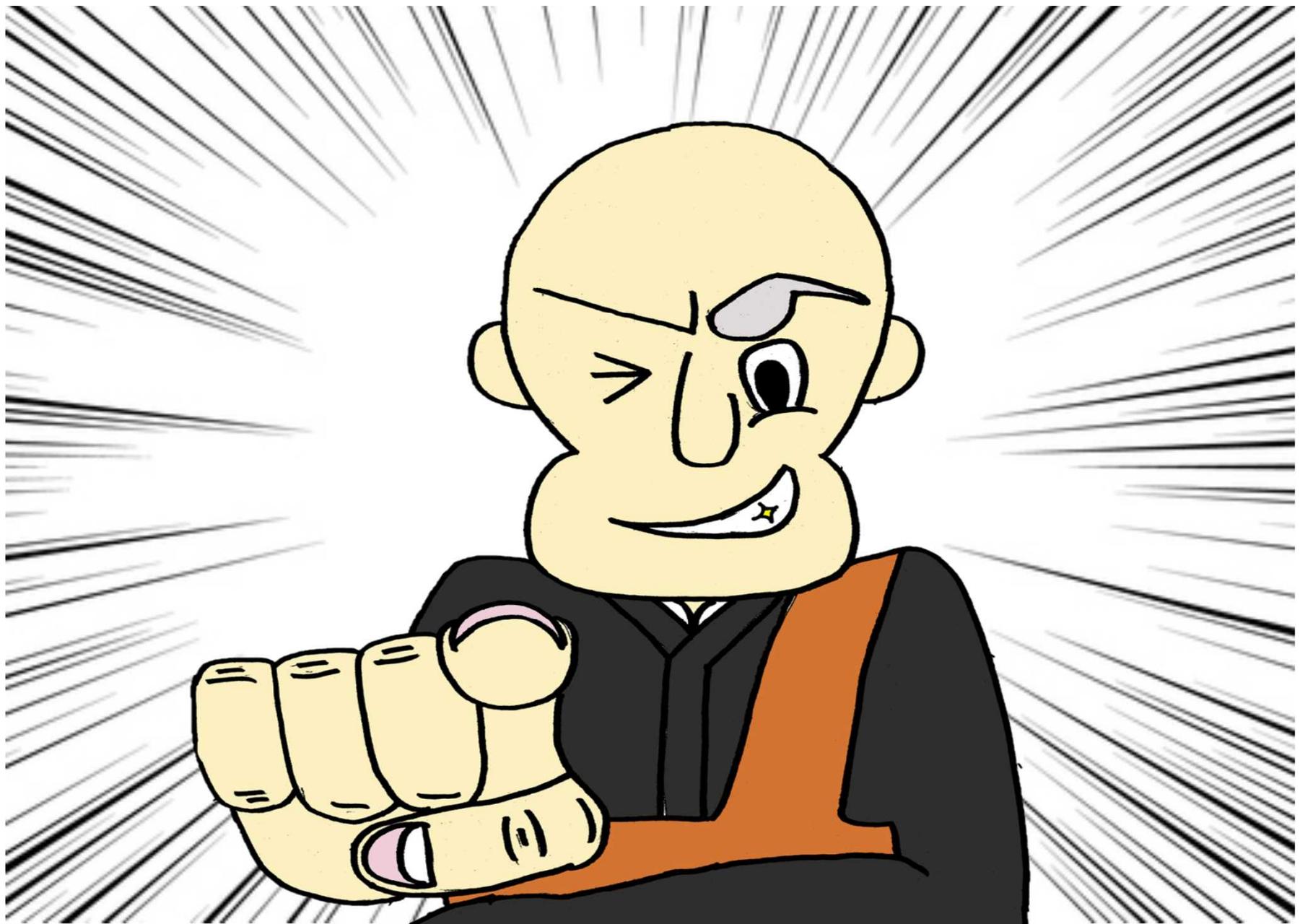
昔、ある寺に、とてもケチな和尚様がいました。
ケチでケチで、貰えるものなら芋の皮さえ欲しい、出すものは屁でさえも出したくないというほどのケチな和尚様でした。
それなので、村々の人たちからは「ケチ寺」と呼ばれていました。
しかしながら、この和尚様はなかなかの学のある人で、歌を詠むのが大好きでした。
歌というのは、五・七・五の和歌のことです。



ある日、このお寺に、檀家からボタ餅が届きました。
和尚様は、一人だけで食べて、残りは隠してしまい、小坊主たちへ一口も分けてあげませんでした。

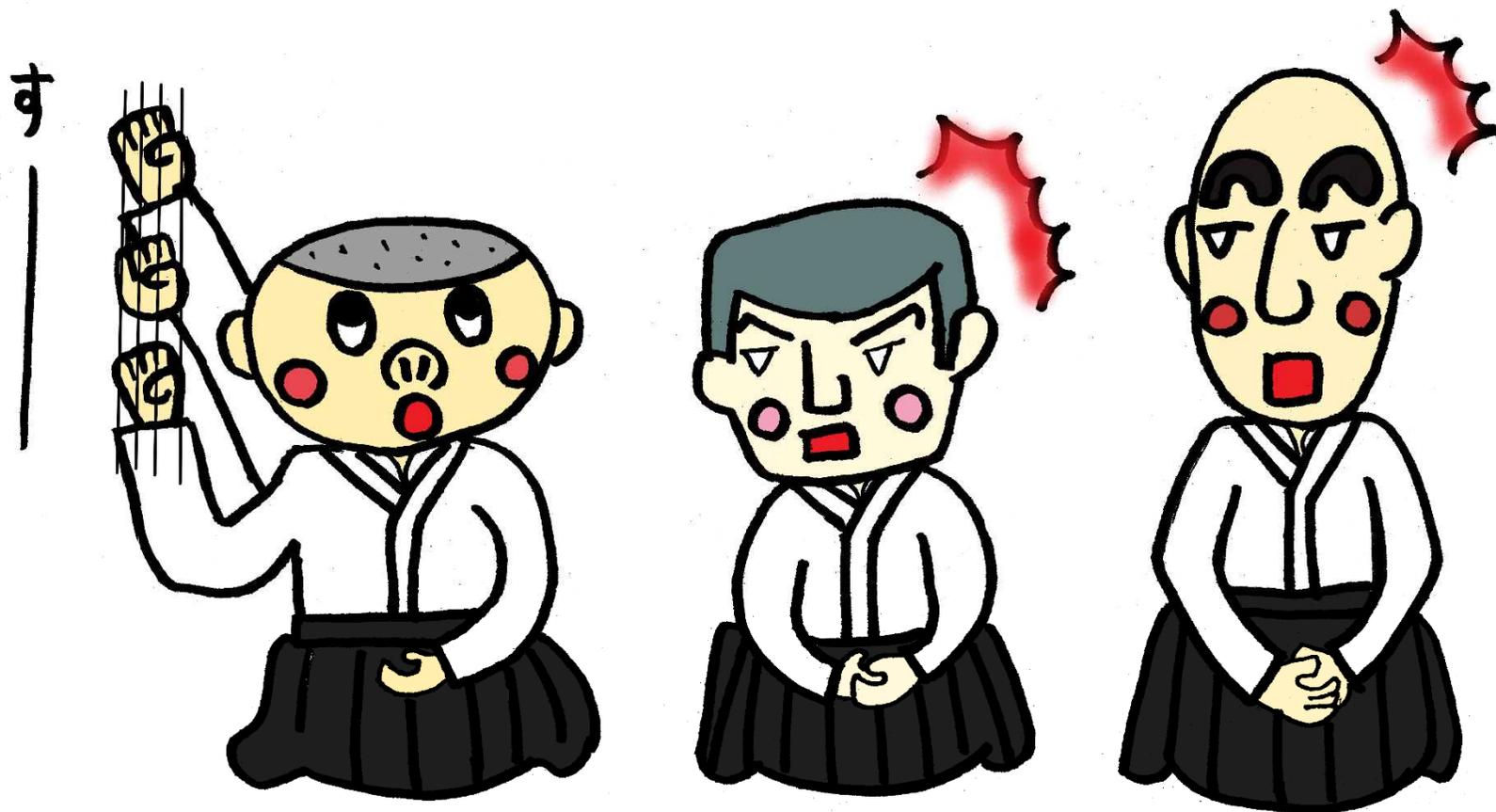


小坊主たちは、食べたくて食べたくて、三人で相談して和尚様のところへ行きました。
『和尚様、和尚様、先ほど檀家からボタ餅が届きましたよね？
ぜひ私たちにも食べさせてください』と言いました。



和尚様は、一人でこっそりと食べていたのがバレていたので、都合が悪い気がしましたが、とっさに

『よしよし、実は、後でお前達にも食べさせたいと思っていたけれど、ただで食べさせるわけにはいかない。お前達、和歌を詠んでみろ。出来たものから食べさせてやる』と言いました。



三人の小坊主は、静かに考えていましたが、やがて、その中の一人が『私、出来ました』と言いました。

『わかった。では、お前から詠んでみろ』



一人目の小坊主が、和歌を詠みました。
『名月や

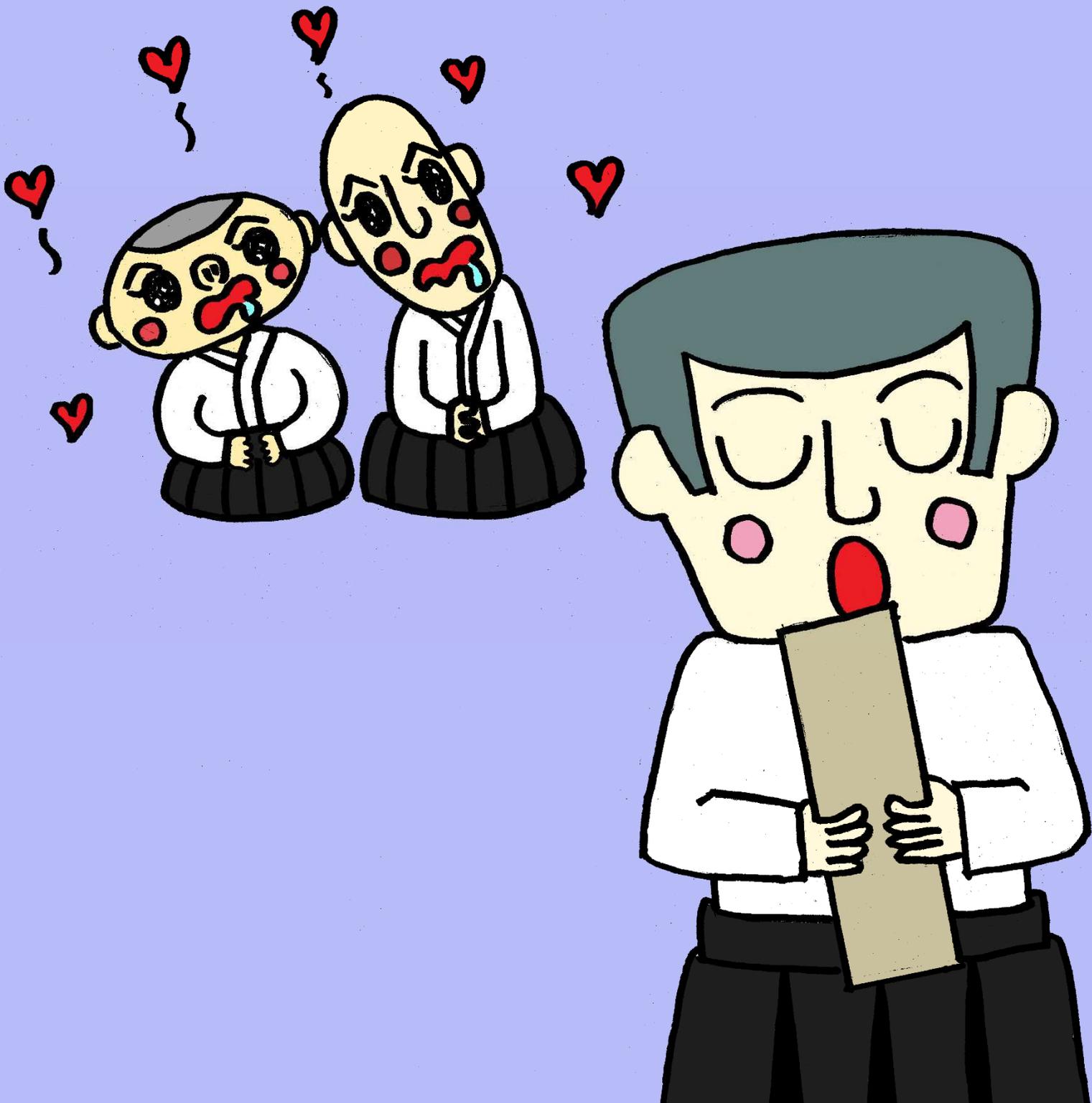
総代様が 来てくれた

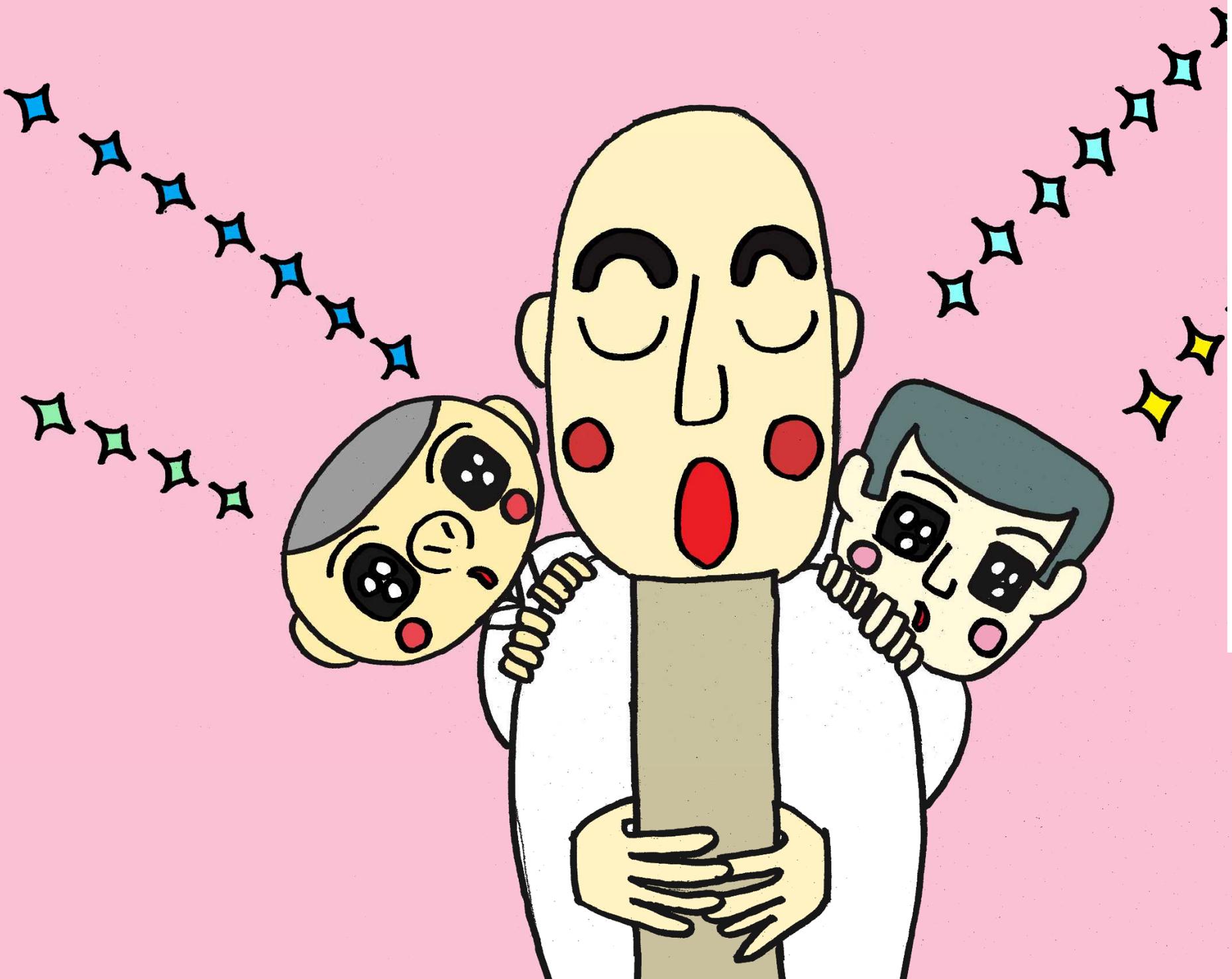
大きな重箱 ボタ餅さげて』

今度は、二番目の小坊主も詠みました
『名月や

総代様が 帰っても

待てど暮らせど 来ないボタ餅』





すると、三番目の小坊主も詠みました
『名月や

たくさんもらった 餅だもの

私にくれても 罰あたらない』



和尚様はギャフンとなり、みんなにボタ餅を分けてあげました。
それからというもの、小坊主たちは、何かあれば和歌を詠むようになりました。
和尚様もだんだんとケチな気持ちが無くなってきて、小坊主たちに和歌を仕込み、一緒に詠み
ました。



fin

檀家の人たちが来れば、小坊主たちも和歌を詠んで披露するので、村の人も、町の人も、みんな感心して、いつのまにか、ケチ寺から『名月寺』という風流な名前と呼ばれるようになりました。

和歌はいいもんだなあ。

みんなも一句詠んでみませんか？